

子どもの貧困率 過去最高

子育てを応援・支援できる社会を

(子どもの貧困対策に向けた政策を発表しています。詳しくは日本共産党ホームページで)



日本共産党市議会議員

小田 桐たかし

生活保護基準引き下げに便乗し、就学援助基準を引き下げる自治体も一方、流山市では「H26年度は基準の引き下げはしない」「消費増税に伴い、支給項目単価は引き上げる」と小田桐市議の質問に約束しました。しかし、結婚をせずに(非婚で)子どもを生んだ母子家庭に対する「寡婦控除」のみなし適用(※)については、全国的な広がり逆行して、流山市では「生活保護世帯が多い」と導入しない考えです。ご一緒に力をあつめ、貧困を解決できる社会を実現しましょう。

所得税法の「寡婦控除」は、夫との死別や離婚した母子家庭に適用され、算出された所得に基づき、地方税、国民健康保険料、公営住宅入居資格や賃料、保育料算定される。一方、非婚の母子家庭は、同じ収入でも課税や保険料、保育料が高く設定され、経済的負担が重い。

就学援助の大幅拡充・非婚母に寡婦控除を

生活の維持向上に欠かさないのが『仕事』。しかし流山市の保育園待機児は91人(H26年4月1日現在)と、『保活(保育園入所のための活動)』も深刻です。小田桐市議は、認可保育園の新增設とともに、株主配当を優先した保育経営や無資格者に依存した保育運営を批判しています。

待機児91人 親も子も安心できる保育環境を

16.3%…子どもの貧困率(H24年度時点)が悪化しつつ、とうとう6人に1人の割合に。また母子家庭で『生活苦』は8割にも広がっています。改善に向けて何ができるのか…一緒に考えましょう。